

オハイオ州・フィンドレー大学 奨学生 最終レポート

平成23年度オハイオ・埼玉スカラシップ奨学生の大熊彩記子(おおくまさきこ)です。平成23年8月～平成24年5月まで、オハイオ州のフィンドレー大学で勉強させて頂きました。

9ヶ月という留学で得たものは、間違いなく、今後の私の人生に最も重要な方向性を与えてくれました。まずは、このような機会を与えていただけたことに、埼玉県、オハイオ州、関わった全ての人に感謝を申し上げます。

9ヶ月間、今までの24年間で自らが培ってきたものの全てを活かし、ぶつけてみて、時には辛く苦しく、上手いいかないことも多々あり、それでも負けずにもがいて、戦って、自分にとって本当に大切なものは何かを考える機会がたくさんありました。日本とはどんな国なのか。アメリカ人ってどんな人達なのか。そして、私はどんな人間なのか。はっきり言って、日本とアメリカは全く異なる国です。埼玉親善大使なのに、そんなこと言って良いのか、と思いますが、私は正直に日本とアメリカの違い、良いところ・悪いところ、世界で生きていくためにはどうしたら良いのかについてお話したいと思います。なぜなら、文化が違うのだから、仲良くしていくのが難しいのは当たり前ですし、違いを知ってこそ、初めて異文化交流ができると思うからです。なので、最終レポートでは、私が9ヶ月間活動してきたことではなくて、何を感じ、今どう考えるかについて書きたいと思います。

~~~~~

留学で最も身についたと思うのは、異文化コミュニケーションのスキルです。語学力だけなら、日本に住んでいても努力すれば身に付くと思います。しかし、日本を出て、異国の地で暮らすということ。友達どころか知り合いも一人もおらず、家族と離れて暮らすのも初めての経験。その中で一から友達を作っていく、しかもアメリカ人と！家族や友達に大切さを感じると共に、改めて「友達ってどうやって作ってきたんだろう？」と疑問に思いながら、今まで私を受け入れてくれた全ての人に感謝の気持ちでいっぱいになりました。アメリカでは、日本で過ごしてきた様に、そのままの自分を振舞っても、人間関係は上手いいかないことの方が多いと思います。もちろん個人差はあり、日本語を専攻していたり、もともと国際関係に興味があったりするアメリカの学生は、日本人に対して、かなり理解があります。ラッキーなことに、私のルームメイトは日本語専攻だったので、アメリカ人社会の中で困ったことがあると、いつも彼女に質問することができました。アメリカ人であるからといって、日本人が突き当たる問題全てに解答できる人はいません。なぜなら、どのような文化の違いから、日本人が困っているのかが、普段日本人と関わりのないアメリカ人にはわからないからです。その点で、ルームメイトには、本当に助けられました。

皆さんもイメージの中にはあると思いますが、アメリカ人は本当にはっきりと口に出して自分の意見を言います。本で読んだことがあるのと、実際にこのような状況を目の当たりにするのは違います。例えば、グループで何か一つのテーマを絞らなければいけない時、自己紹介も間々ならず、さっそく意見のぶつけ合いです。私はどうやって話を割って自分の意見を言ったら良いのかわからず、いつも自分の意見を言いそびれてしまっていました。仲の良いアメリカ人にこのことを尋ねると、「アメリカ人は自分が良いアイデアを持っていて、自分は能力があるということをみんなにアピールしたいんだ。」と答えてくれました。これを知るとは大きな進歩でした。つまり、逆に考えると、意見を述べない私は、無能な人間だと思われる可能性があるということです。それからは、話し合いが始まると同時に自分が話し始めるか、話の途切れの一瞬の間を逃さないように話し合いに臨むようにしました。これは、きっと国際社会で渡り歩いていくためにも必要なスキルだと感じました。

ところで、日本の場合はどうでしょうか。こんなことがなければ日本についても考えることはなかったと思いますが、日本人の場合は、「すぐに自分の意見を主張したら、生意気だと思われるかな・・・」と考えるなど、相手のことを知るまでは、自分の意見は言えない(言わない)傾向があると思いました。これは、決して悪いことではなく、「自分の意見によって、人がどんな影響を受けるか、どう感じるか」など、先回りして、相手の立場に立って考えているということだと思います。日本では、これが普通なこととして求められますし、人間関係を築く上で非常に重要なことなのです。しかし、アメリカに留学したことで、「自分の普通は皆にとっての普通じゃないんだ。」ということに気付かされ、自分にとっての常識で物事を判断しないように気をつけようと思いました。

また日本人とアメリカ人で、意識している部分というのは非常に異なります。例えば、上で述べたように、アメリカでは相手を気にしたり、空気を読んだりする必要はなく、そのような環境から自由な発想や素早い決断が生まれるのだと感じました。アメリカ人が強く意識するのは、民族や性別といった権利意識です。これは、日本人にとっては意識が薄いどころか、皆無であると思います。私は日本に帰ってきてから、この点に関しての非常に大きな「逆カルチャーショック」に出会いました。私は日本に帰国後、就職活動をしていたのですが、高校を卒業した年や大学に入学・卒業した年、現在の年齢などを当たり前の様に聞かれます。しかし、実はアメリカではこれを聞くことはとても差別的ですし、無理に答える必要もありません。その人がそれまでのように自分の時間を使ってきたかは本人の自由ですし、年齢によって、その職に適しているかどうかを図ることは差別です。しかし、日本はどうでしょうか。「第二新卒」という言葉が生まれているように、大学3年の秋から就職活動を始め、全員が4月に入社し、もしその時間軸からずれてしまうことでもあれば、まるで取り返しの付かないことになってしまうような空気を生み出しています。日本人の学生に対する「皆と同じルールを進まなければならない。」という社会からのプレッシャーは非常に大きなものだと感じました。そして、このプレッシャーによって、

様々な可能性や希望をも、摘み取ってしまっているのではないかと心配になりました。もちろん、そのような時間軸に沿って、自らを律し、計画を立て、準備をし、時間内に事を終えるという力も必要な力ですし、能力ある人はそれが実現可能だと思います。しかし、私は日本が、より自由で柔軟な社会になって、世の中にはいろいろな人がいて、様々な道があるんだということを皆が理解し合って欲しいと考えています。そして、外国人の方をもっと受け入れる社会を作り、国際競争力を身につけていくことを願っています。そのためには、日本人の方はもっと世界に出て、異文化に触れるべきですし、外国人の方ももっと日本に来ていただきたいです。

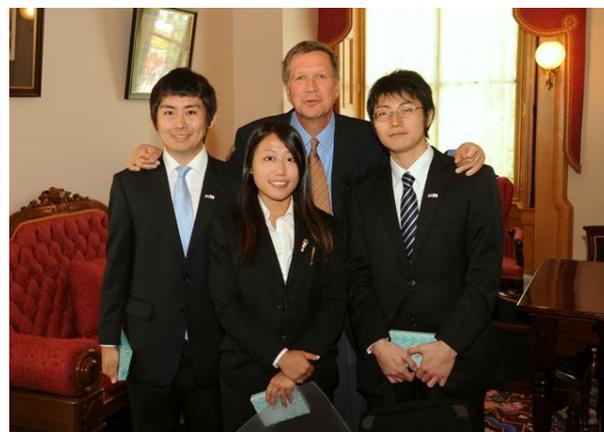
~~~~~

このように私の考えは、留学する前と後で非常に変わりました。日本人は日本が普通で、世界が変わっていると思っているかもしれませんが、日本は本当にユニークな文化を持つ国です。私はもともと日本が好きでしたが、外国に住んでみて、ますます日本の良さに気づき、また、アメリカで愛され、信頼されているたくさんの日本製品を見て、私も海外で頑張る日本企業と一緒に頑張りたい、と思うようになりました。日本企業が海外に進出することで、その地域社会の発展に貢献しているのです。海外の人が日本製品の品質に信頼をおいている姿を見て、日本人としてとても誇りに思いました。

日本ってなんて素晴らしい国なんだ、と思うことが本当に多かった9ヶ月間。これからも日本人としてのプライドを持って、埼玉県、日本、そして世界を盛り上げていきたいと思えます。ここまで自分が成長することができたのは、自分一人の力ではありません。今まで支えてくれた両親や家族、友達に感謝しています。そして、個人で留学したのではなく、埼玉親善大使として留学したことで、普段は会えないような人々に会えたこと、オハイオ州やアメリカの人々に埼玉県や日本のことを伝える活動を通して、小学生から大学生までの子供達に出会い、交流できたことは、非常に刺激的で、貴重な経験となりました。まさに、この経験が活きるのは、これからであり、この留学経験を活かして、社会に貢献していきたいと思っています。私にこのような機会を与えてくださって、本当にありがとうございました。



オハイオ州知事訪問



ジョン・ケーシック州知事と OSUS 奨学生3名



オハイオ州政府とのプロジェクトを共に頑張ったクラスメイト



ハウスメイトにカレーうどんを作って皆でランチ



ハウスメイトと友人とのたこ焼きパーティー



ルームメイトの実家でかぼちゃのランタン作り(ハロウィーン)



友人達とアイスクリームのケーキを食べに



仲良しのハウスメイト・友人達